

26. 令和7年度山口県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

山口県立総合医療センター
てんかんセンター長 藤井 正美

1. 概要

山口県立総合医療センターは、総病床数は504床であり、一般病床490床と第一種および二種用感染症病床14床（感染症センター）から成る。

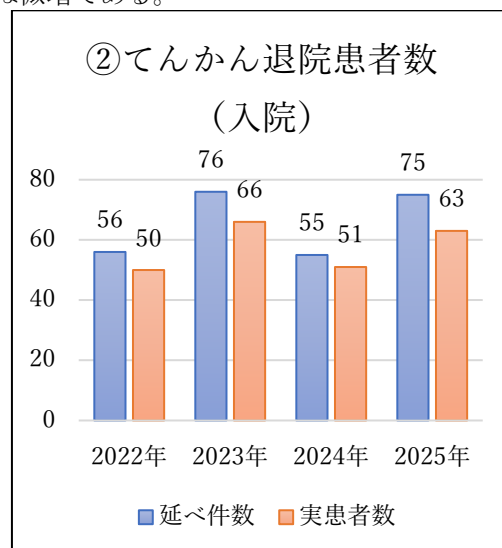
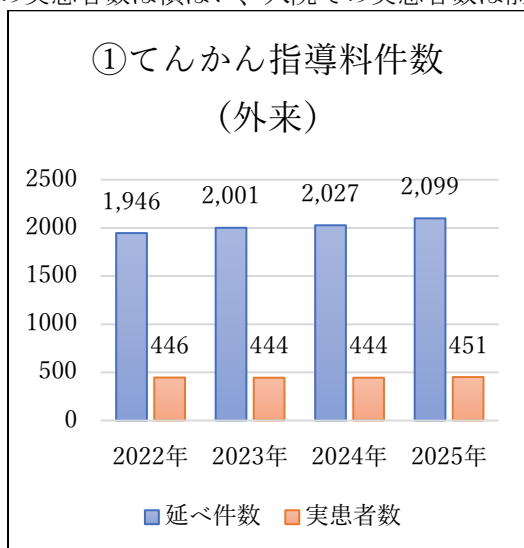
(1) 当センターのてんかん診療

当センターのみでは全てのてんかん患者さんに対応することはできないため、病院内関連科、大学病院及び県内のてんかん診療を行なっている医療機関との連携体制を強化し、てんかんの地域医療及び先進的研究の発展に寄与する。

- ・長期継続ビデオ脳波同時記録
当院では病室2室で対応可能。
- ・高密度脳波検査（256ch脳波）
当院での高密度脳波検査は256chで行っている。
- ・ICU持続脳波モニタリング検査（頭蓋内脳波記録を含む）
ICU内で検査技師が対応している。
- ・NICU amplitude integrated EEG（新生児科）
ICUと同様に、NICU内でも検査技師が対応している。
- ・半導体PET/CT
難治性部分てんかんで外科切除が必要とされる症例に使用している。
- ・妊娠可能な女性のてんかん患者カウンセリング（総合周産期母子医療センター）
てんかんに造詣の深い産婦人科医師が、妊娠を考える女性にカウンセリングを行っている。
- ・外科治療
側頭葉切除術、脳梁全離断術、SEEG、硬膜下電極、VNS、DBS等の手術を行っている。

(2) 実績報告

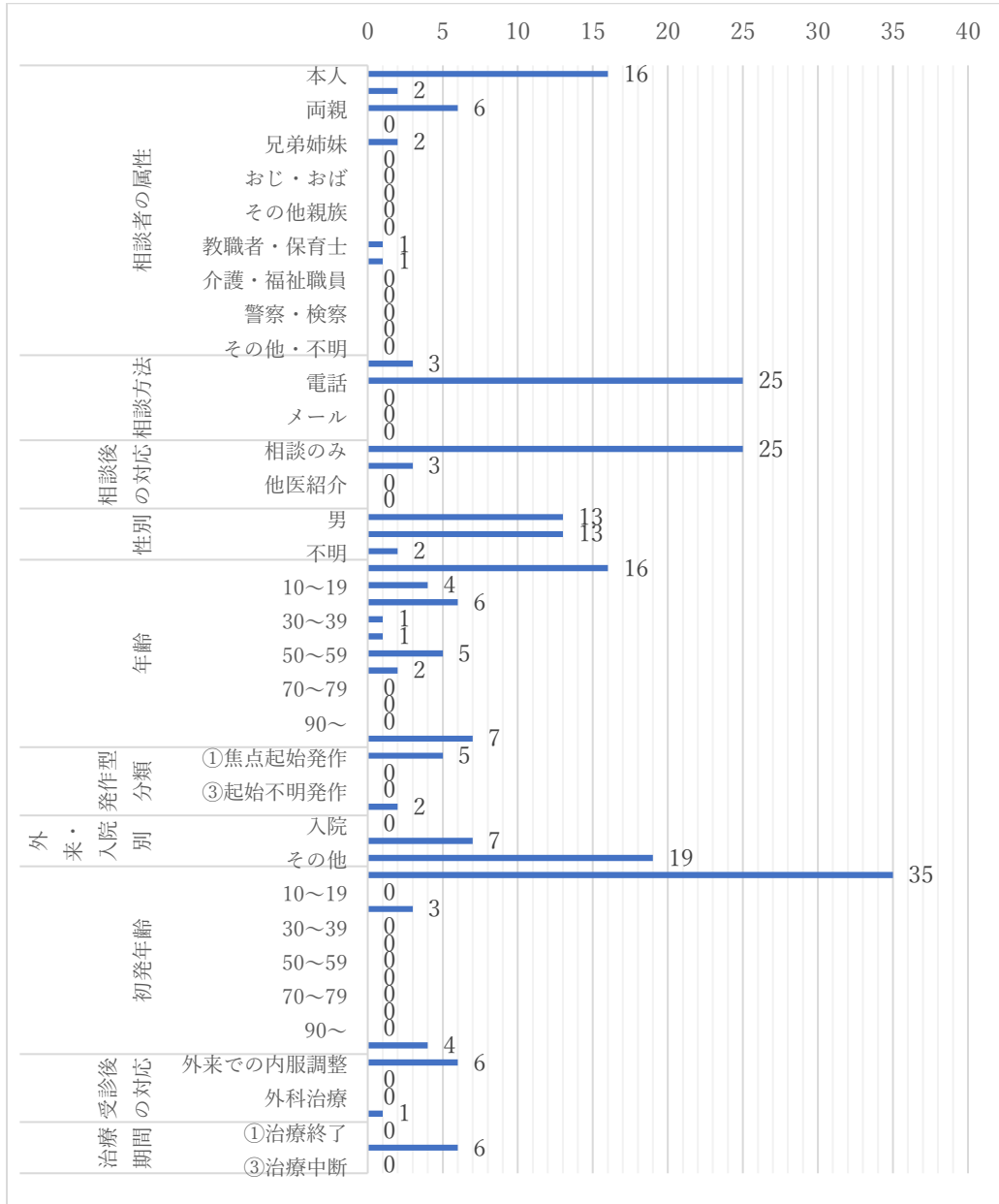
- ・令和7年（2025年）における集計データ4月1日～12月31日分である。
- ・外来での実患者数は横ばい、入院での実患者数は前年度比では微増である。



(3) てんかん相談について

- ・集計データは令和7年4月1日～令和7年12月31日分である。
- ・相談件数は28件（昨年度：35件）であった。 ※昨年度は令和6年4月1日～令和7年1月31日分相談内容（主要なもの）
- ・病状に対する不安（患者）
- ・受診に関する相談（患者）

- ・かかりつけ医療機関の対応についての不満（患者）
- ・就労についての不安（患者）
- ・セカンドオピニオンについて（患者）
- ・自立支援医療、障害年金等について（患者）
- ・介護の相談（患者家族）
- ・学校クラブ活動における発作時の対応（患者家族）
- ・高所作業の可否（医療機関医療従事者）



(4) てんかん症例検討会について

日時	内容	参加者
令和7年 5月19日	第1回てんかん症例検討会 ・症例1：側頭葉てんかん ・症例2：特発性全般てんかん	脳神経外科・脳神経内科4名、研修医3名 臨床検査技師：6名 看護師：6名
令和7年 7月3日	第2回てんかん症例検討会 ・症例1：焦点てんかん ・症例2：特発性全般てんかん	脳神経外科・脳神経内科5名、研修医1名 臨床検査技師：5名（院内）、1名（院外） 看護師：1名
令和7年 9月2日	第3回てんかん症例検討会 ・症例1：難治性てんかん（焦点てんかん） ・症例2：難治性てんかん（焦点てんかん）	脳神経外科・脳神経内科4名 臨床検査技師：6名（院内）、1名（院外）

令和7年 11月6日	第4回てんかん症例検討会 ・症例1：側頭葉てんかん ・症例2：前頭葉てんかん	脳神経外科・脳神経内科5名、研修医1名、院外 脳神経外科：1名 臨床検査技師：7名（院内）、1名（院外）
令和8年 1月15日	第5回てんかん症例検討会 ・症例1：特発性全般てんかん ・症例2：多焦点性てんかん	脳神経外科・脳神経内科4名 臨床検査技師：6名（院内）、2名（院外）
令和8年 3月予定	第6回てんかん症例検討会 ・2症例提示予定	

2. 活動状況

(1) 県民公開講座、てんかん診療医療従事者セミナーを開催

令和7年10月25日(土)、おちあい脳クリニック、落合卓院長先生、及び自治医科大学附属病院、脳神経外科教授、川合謙介院長先生をお迎えし、てんかんをテーマとする『県民公開講座』及び『医療従事者セミナー』を開催した。



開催日(終了)・講師
2025年10月25日(土)
脳神経外科 藤井 正美 参与
脳神経内科 福迫 俊弘 副院長
外部講師 自治医科大学附属病院
病院長 川合 謙介
おちあい脳クリニック
院長 落合 卓

県民公開講座は現地参加を30名の定員制としており、当日は16名が参加された。YouTubeライブ配信での参加は66名であった。その後、アーカイブでの視聴は87回となっている。

医療従事者セミナーは郡市医師会経由で県内全域の医療機関に広報を行った。参加者は15名(昨年度42名)で、うち13名(同37名)がZOOMでの参加であった。職種別では医師：3名、看護師：1名、臨床検査技師：13名、理学療法士：1名、言語聴覚士：1名、介護支援専門員：1名、事務職員：1名であった。

(2) 医療従事者セミナー(院内職員向け)を開催

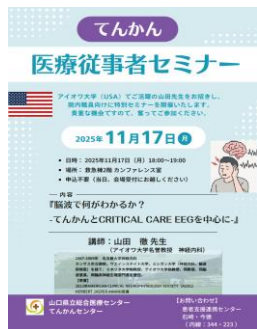
令和7年11月17日(月)、アイオワ大学名誉教授、神経内科、山田徹先生をお迎えし、院内職員の質向上を目的に脳波等を中心とする『医療従事者セミナー』を開催した。

会場参集のみで開催し、院内参加者は26名であった。職種別では医師：11名、看護師：4名、臨床検査技師：6名、相談員(看護師・MSW等)：5名であった。

医療従事者セミナー(院内職員向け)を開催

令和7年12月18日(木)、東京科学大学大学院医歯学総合研究科、精神行動医科学分野准教授、宮島美穂先生をお迎えし、院内職員の質向上を目的に『医療従事者セミナー』を開催した。

会場参集のみで開催し、院内参加者は7名であった。職種別では医師：2名、臨床検査技師：5名であった。



(3) 山口県内における広報・連絡体制

昨年度より山口県医師会及び19の郡市医師会を通じて、県内全域の医療機関にEメールで広報する体制を整えた。また、医療従事者セミナーの広報については、前述の医師会経由での広報に加え、次の職能団体へも広報を行っている。

(山口県薬剤師会、山口県看護協会、山口県臨床検査技師会、山口県理学療法士会、山口県作業療法士会、山口県言語聴覚士会、山口県社会福祉士会、山口県精神保健福祉士協会、山口県医療ソーシャルワーカー協会)

(4) てんかん治療の普及・啓発

令和7年5月11日(日)、当院において地域交流を目的としたイベント「すまいるフェスタ」が開催され、約1,000人が参加された。イベントのブースとして、当院のてんかんチーム(医師1人、MSW2人、看護師1人)が参加し、ゲーム(輪投げ)を通じててんかんを知っていただく催しを実施した。ゲーム景品としてパープルデイの関連グッズを配布した。また、医師による個別相談窓口も開催した。参加者は次のとおりである。

- ・てんかんブース参加者(延べ)：111人
- ・医師によるてんかん相談：2人
- ・輪投げ景品配布：缶バッジ281個、ブックマーク85枚



(5) 山口県てんかん治療医療連携協議会における教育分野の委員増員

多領域の関係者による多角的な意見交換と協議を行うため、今年度より教育分野を代表する委員2名を新たに増員した。

(6) 当院における医療従事者の研修援助

てんかんに携わる当院職員の質向上のため、下記研修等に参加した。

日程	参加者	研修内容
令和7年7月27日	看護師1名 社会福祉士3名 精神保健福祉士1名	てんかん診療支援コーディネーター研修
令和7年10月2日～4日	医師1名	日本てんかん学会学術集会
令和7年11月13日～15日	医師1名 臨床検査技師1名	日本臨床神経生理学会学術大会
令和7年12月21日	看護師1名 社会福祉士3名 精神保健福祉士1名	てんかん診療支援コーディネーター研修
令和8年3月28日～29日 (予定)	医師2名 看護師3名 臨床検査技師2名 社会福祉士1名	全国てんかんセンター協議会総会